

# 新年のご挨拶

NPO法人日本社会福祉愛犬協会

理事長 渡辺義人



会員の皆様、新年明けましておめでとう御座います。

本年は昨年にも増してご愛犬との良い1年になる事を願っております。

昨年は二〇一九年一二月に世界で初確認され、たちまち猛威を振るった新型コロナウイルスの感染が拡大する中においてオリンピック・パラリンピックTOKYO2020が開催国である日本の運営側と選手団、また開催地域にて試行錯誤をしながらも盛大に開催されました。開催国としての日本の文化を紹介する中で豆柴を始め日本原産犬が様々な媒体を通じ世界各国各地域の人々の目に触れたと思います。

当協会が世界に誇る豆柴ですが公認当初に比べ体高も基準内に収まり系統も多岐に渡り遺伝性疾病(GM1ガングリオシドーシス)検査の義務化も浸透し健全性も増して一般飼育者への認知

度も向上していますのも、全て会員のブリーダー様方の努力の結果だと嬉しく思います。

しかし、ごく一部のブリーダーにあつては洋犬種との交雑の疑いを持つような作出や必要量よりかなり少なく給餌量の調整をして過度な小型化を行うような場合があるようですが当協会では、その真相を調べ不正行為または動物愛護法違反の事実が確認された場合は規定に沿って厳罰に処します。

また豆柴の犬種標準には柴犬の特徴を著しく受け継ぎとあります。柴犬は日本犬です。日本犬はその本質を重視しております。目や被毛、体躯だけではなく精神面も重要です。今まで以上にブリーダーの皆様には本質を見極めて作出してくださいませ、宜しくお願い申し上げます。

動物愛護法の改正もあり人と伴侶動物の関係性も明確に数値化されて来ました。会員の皆様方には当協会の愛犬と共に社会福祉に貢献するとの理念に賛同頂いている中で改めて社会福祉とは？犬の幸せとは何か？という基本中の基本、すなわち原点に立ち動物愛護法を正しくご理解頂いている事と推察いたします。

海外との交流はコロナ禍で渡航は出来ませんが中国、韓国を始めヨーロッパやアメリカなどでも続々と新規加盟クラブの相談が来ておりますので、これからもグローバルに世界情勢を見極めながら当協会の更なる認知度向上に努めて参ります。

来年には当協会KCジャパン設立五〇周年を迎えます。設立より五〇年もの長きに渡り会員の皆様方に支えて頂きました事に深く感謝申し上げます。

